



公益財団法人 宮城県対がん協会

ともしび

TOMOSHIBI



当協会の 特 色

- 高い精密検査受診率と高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理

写真：伊豆沼マガンの飛び立ち(宮城県観光プロモーション推進室)

CONTENTS

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| ② 新年の挨拶 | ⑨ 宮城県がん総合支援センターのご案内 |
| ③ がん検診事業説明会／がん予防研修会 | ⑩ 健康コラム |
| ④ がん征圧月間行事 | ⑫ ご寄付をいただいた法人・個人名簿 |
| ⑥ 対がん協会健康まつり／市町村健康まつり／街頭啓発活動 | ⑮ ベルジョイス様寄付／継続寄付のお願い |
| ⑦ がん征圧全国大会 | ⑯ 2026年度黒川利雄がん研究基金 |
| ⑧ リレー・フォー・ライフ／宮婦連ブロック別研修会 | 研究助成金募集のお知らせ |

早期発見
早期治療

がん検診は
定期的に!



グー子ちゃん

がん助くん

令和8年

新春のご挨拶

これからのがん検診について



公益財団法人 宮城県対がん協会
会長 下瀬川 徹

新年明けましておめでとうございます。今年の干支は「丙午（ひのえうま）」。「馬（午）」は勝利、出世、商売繁盛のシンボルとして親しまれてきた縁起の良い動物です。今年は幸運に恵まれ、発展する良い年になるよう願います。

昨年は、わが国初となる女性首相が誕生しました。高市早苗氏は、以前から健康福祉、医療、介護の重要性を強調されており、国民の命を大切にする政策が一層展開されるよう期待します。今や戦後の団塊の世代全員が75歳を迎えて後期高齢者となり、日本社会の超高齢化と労働人口の減少はますます深刻な問題になります。2024年度の医療費総額は約48兆円に達し、国家予算全体の約4割に相当します。増加の一途をたどる医療費の伸びを抑えるためには、健康寿命を維持するよう国民一人一人の努力が求められます。

さて、令和5年の厚生労働省による人口動態統計では、わが国の「がん」による死亡数は38万2000人を超えて死因の第1位であり、増加傾向に歯止めがかかりません。男性のがん死亡の第1位が肺がん、第2位が大腸がん、第3位が胃がん、すい臓がんが第4位となり、肝臓がんが第5位です。女性では第1位大腸がん、第2位肺がん、第3位すい臓がん、第4位が胃がん、第5位肝臓がんの順となり、男女合計では第1位が肺がん、第2位大腸がん、第3位すい臓がん、第4位が胃がん、第5位肝臓がんが続きます。昭和30年代には男女ともに胃がんががん死亡の圧倒的多数を占めて国民病と呼ばれ、その克服が大きな課題でした。しかし、ピロリ菌が胃がんの主な原因であることが判明し、衛生環境の改善やピロリ菌の駆除によって、胃がん死亡数は急速に減少しています。肝臓がんも、最も重要なリスク因子であるB型・C型肝炎がウイルスによることが明らかにさ

れ、感染予防策の普及や抗ウイルス薬の開発により、死亡数が顕著に減少しています。

一方では、今なお急激に増え続ける悪性腫瘍、肺がん、大腸がん、すい臓がん、乳がんについては生活習慣の改善による1次予防と早期発見、早期治療が重要です。禁煙、節酒、バランスのとれた食事、運動と適切な体重維持は、個人個人が健康を自覚し、努力することによって改善しうる基本的予防策です。住民検診で行われるがん検診は、対策型がん検診と呼ばれ、受診によってそのがんによる死亡の減少が科学的に証明されたがん検診です。しかし、すい臓がんのように極めて死亡率が高く、死亡数が年々増加していて早急な対策が必要にも関わらず、早期発見が難しく、検診の有効性が科学的に証明されていない「がん」があります。また、40歳代以降の乳がんにはマンモグラフィに超音波検査を加えるとがん発見率が向上することが大規模臨床試験で明らかにされているにもかかわらず、エビデンスが不十分とされ対策型がん検診に加えられないものもあります。このような課題を解決するにはとても長い時間がかかり、そのために手遅れとなる方が出るのは何としても避けなければいけません。私は、これからのがん検診は国や自治体、事業所等が提供するものに頼るだけでなく、一人一人ががん検診の有効性について理解を深め、自らの判断で必要な検査を人間ドックや各種オプション検査によって補って、少しでも早期発見の確率を高める自己努力が必要と考えます。

宮城県対がん協会は精度管理を重視した対策型がん検診を提供するとともに、人間ドックや各種オプション検査にも力を入れており、皆様のお役に立てるよう努力を続けております。

2026年度がん検診事業説明会

10月3日(金)県内各市町村及び主たる事業所の担当者等を対象に「2026年度がん検診事業説明会並びにがん予防研修会」をフォレスト仙台で開催しました。

説明会の冒頭、当協会下瀬川会長は出席者に向けた挨拶を行い、夏場の猛暑の中でも大きな問題がなく検診を実施することができたことについてお礼を述べました。また、がんで亡くなる方のうち膵臓癌が増えていることへの懸念を示し、教育、啓発活動を引き続き行っていきたいと述べました。

続いて布田事務局長は、就任の挨拶を述べ、次年度のがん検診事業計画について説明を行いました。

県民のがん検診受診の意識向上のためには、がんについての正しい知識の提供・検診の重要性の普及啓発が必要であることから、住民や職員に対する働きかけを呼びかけました。そのうえで、「宮城方式」を基本とした各種がん検診及びがん・生活習慣病健診を実施し、第4期宮城県がん対策推進計画に掲げられた「がん検診受診率の目標値を70%以上・精密検査受診率を95%以上」の実現に向けて取り組んでいくと述べました。その他、検診料金の改定は行わないこと、検診の実施主体への検診結果の報告についてはクラウド等を利用したペーパーレスでの実施も可能なことが説明されました。また、感染症対策として広い検診会場での集約化、熱中症対策として空調の効いた会場での実施を依頼しました。補足として浅沼清孝がん検診センター副所長より日本医療研究開発機構(AMED)からの胃がん内視鏡検診受診に関する臨床試験へのご協力を呼びかけました。

最後に、宮城県保健福祉部健康推進課がん・循環器病対策班技術補佐(班長)小野寺保様より第4期宮城県がん対策推進計画についてお話いただきました。第4期から“共生”という文字を加え、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とともにがんの克服と共生を目指す」という宮城県独自の目標に変更した他、がん教育や出前講義についてもご説明があり、担当者に向けてご活用いただきたい旨呼びかけました。



がん予防研修会

がん検診事業説明会に続き、がん予防研修会を開催しました。プログラム1として、東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野講師の糸潔先生より「膵臓がんの早期診断に向けて」と題したご講演をいただきました。膵臓がんは早期で発見するのは非常に難しいがんであるが、ステージ0または1などの早期で診断された症例は、膵管拡張、萎縮・脂肪化といった症状が特徴的であり、膵臓がんの早期診断に重要な所見であることが説明されました。また、2024年から新たに保険適用となったアポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォームというリスク検査やAIによる画像診断に大きな期待が寄せられていることが説明されました。

プログラム2では、東北医科薬科大学乳腺・内分泌外科教授の鈴木昭彦先生より、「乳がん検診のNext Step」と題したご講演をいただきました。

日本における乳がん検診の歴史を紐解きながら、マンモグラフィと超音波検査の併用検診による早期乳がん発見の有用性について説明されました。現在は死亡率の減少というがん検診の利益に加え、早期発見により大きな手術や抗がん剤治療が減少することや、異常なしの判定による安心感を副次的な検診の利益とする考え方になってきているため、今後はマンモグラフィに超音波検査を併せた乳がん検診が、有力な検診のオプションになる可能性があるとして説明されました。一方、不利益を最小化する精度管理、システム構築の整備も不可欠であると説明されました。



がん征圧月間行事

がん講演会

9月17日(水)青葉区大町の戦災復興記念館において「がん講演会」が開催されました。当協会会長の下瀬川徹先生が講師となり、「膵臓癌は克服可能か?」と題した講演が行われました。当日は、会場の満員にあたる250名の方に聴講いただきました。近年罹患率、死亡率が増加している膵臓癌。「沈黙の臓器」に発生する膵臓癌は初期症状が乏しく早期発見が難しいとされており、講演では最新の研究成果や予防・早期発見の可能性についてわかりやすく解説していただきました。講演を聞いた来場者からのアンケートでは「膵臓癌についての詳しい話を聞く機会がこれまでなかったので、初めて知ることも多く参考になりました」(50代女性)、「とても詳しく、前向きになれる講演で大変良かった」(60代男性)、「無症状が多く、他疾患スクリーニング中に異常指摘され発見に至ったケースが多いということが印象的でした」(20代女性)、「母が膵臓がんだったので、自分自身のリスクも高いんだと改めて知れた」(40代女性)、「APOA2検査(すい臓がんリスク検査)を受けてみたいと思った」(50代男性)、「新たなバイオマーカーAPOA2についても新たに知ることができた。対がん協会ではドックで検査した後、陽性の結果が出た人に対してすぐに専門の病院に紹介できるのもとても強みだと思う」(60代女性)などの感想をいただきました。

2026年度の講演会は2026年9月29日(火)仙台市シルバーセンター(青葉区花京院)での開催を予定しております。

がん予防パネル展

9月1日(月)から12日(金)まで宮城県庁2階回廊において「がん予防パネル展」を行い、多くの来庁者にご覧いただき、がん予防の大切さをアピールしました。また、9月17日(水)の「がん講演会」の会場で同日行った「がん予防パネル展」では、パネル展示の他、乳房の視触診模型を使ったブレスト・アウェアネスを保健師立ち合いのもとご説明し、多くの方に体験いただきました。



宮城県庁



がん講演会会場

懸垂幕

“受けよう検診 !! 9月は「がん征圧月間」”

がん征圧月間を広く知ってもらうため、がん検診センター、仙台市本局、青葉区・太白区・泉区の各区役所に懸垂幕を掲示させていただきました。



がん検診センター



本局



青葉区役所



太白区役所



泉区役所

ラジオ出演

がん征圧月間に合わせ、東北放送様がラジオにてがん征圧月間キャンペーンを展開してくださいました。また、9月の毎週木曜日に人気ラジオ番組「GOGOはみみこいラジオな気分」内で「ラジオで学ぼうがんのこと」と題したミニコーナーに、当協会の医師をお呼びいただき、専門分野のがんについてお話させていただきました。

1週目は下瀬川徹会長が「すい臓がん」について、2週目は加藤勝章がん検診センター所長が「胃がん」について、3週目は伊藤潔細胞診センター所長が「子宮がん」について、そして最終週は只野敏浩消化器内視鏡検診センター副センター長が「大腸がん」についてお話させていただきました。パーソナリティの佐々木淳吾さんや佐藤渚さんは非常に熱心に話を聞いてくださり、多くのリスナー様にもがんについて考えていただく良い機会をいただきました。



9月4日(佐藤渚さん、下瀬川会長、佐々木淳吾さん)



9月11日(佐藤渚さん、加藤所長、上中咲葵さん、佐々木淳吾さん)



9月18日(佐藤渚さん、伊藤所長、佐々木淳吾さん)



9月25日(佐藤渚さん、只野消化器内視鏡検診センター副センター長、佐々木淳吾さん)

宮城県対がん協会健康まつり

10月25日(土)、昨年に続き健康まつりを開催しました。当日は200名を超える皆さまにご来場いただき、健康チェックや内視鏡体験、ミニコンサート、キッチンカー、物販コーナーなど、楽しみながら健康について考えていただきました。会場には胃がん検診乗車体験コーナーを設置し、普段はなかなか乗る機会が無いお子様にも大勢ご参加いただき、がん検診の重要性について知っていただきました。なお、キッチンカーなどの外部物販・体験コーナーを除く各コーナーでの売上(50,450円)は、全額がん知識の普及啓発・調査研究事業等に寄付させていただきました。ご参加、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



健康チェックコーナー
(運転適性検査:ナスバ様)



大腸内視鏡体験コーナー
(機材貸与オリンパスマーケティング株式会社様)



ステージ(大平一心様)



胃がん検診乗車体験



キッチンカー
(ブヨ様、きいろいタコ様)

市町村健康まつり

今年も昨年に引き続き県内多くの市町村で“健康まつり”が開催されました。“健康まつり”は例年7月頃から始まり、10月・11月は毎週のように開催され、当協会もがん検診の普及啓発のため参加させていただいております。がん検診のパネル展示とチラシリーフレットの配布、乳がん視触診模型体験、ノベルティの配布を行いました。お近くの市町村で“健康まつり”が開催された際は是非、お出かけしてみてください。

大崎市「健康と福祉のつどい」

10月18日(土)、19日(日)開催

2日間で約150名の方にブースに立ち寄っていただきました。



名取市「歯と口の健康ひろば」

10月25日(土)開催

約70名の方にブースに立ち寄っていただきました。



街頭啓発活動

リガーレ仙台開幕戦

10月18日(土)当協会街頭活動の一環として、在仙のプロバレーボールチームリガーレ仙台様の2025-2026V.LEAGUE WOMEN開幕戦にて、がん検診受診の呼びかけを行いました。当日は、会場の元気フィールド仙台に来場された大勢の観客の皆さんに、がん検診受診を促すメッセージ入りのウェットティッシュを配布しました。併せて、10月はピンクリボン月間のため、ピンクリボン仙台推進委員会で用意したバスソルトなどの啓発グッズ100セットを配布しました。また、当協会のブースではプレスト・アウェアネスの啓発、乳がん検診や子宮がん検診の啓発パネルの展示を行いました。リガーレ仙台選手、スタッフのみなさまご協力ありがとうございました。



がん征圧全国大会

公益財団法人日本対がん協会では毎年9月を“がん征圧月間”と位置づけ、がん予防、がんの知識と検診の重要性を伝える啓発運動を行っています。

今年のがん征圧全国大会は9月19日(金)に神戸市中央区の神戸ポートピアホテル/ポートピアホールで開催され、全国の医療機関関係者や支部関係者ら500名が参加し、がん撲滅に向けて決意を新たにしました。

今大会は「ひょうごから未来へつなげるがん検診」をテーマに開催され、「朝日がん大賞」、「がん征圧スローガン入賞者」、「永年勤続者」の表彰が執り行われました。2025年度がん征圧スローガン「健康は 予防と検診の 二刀流」は当協会元職員物江一榮さんの作品が選ばれ、大会に出席した杉本武彦ドック推進課長が代理で垣添忠生会長から表彰状を受け取りました。

記念講演では、タレントの堀ちえみさんが「ステージⅣの舌がんを乗り越えて生きる～キャンサーギフト・大切な家族～」と題し、自身の闘病生活とそのなかで受けた家族や仲間の支えを振り返り、感謝と生きることへの想いなどをお話しされ、次期開催地の秋田県支部からの挨拶で幕を閉じました。

前日のシンポジウムでは組織型検診をテーマに5大がん検診の専門家、がん検診関連の施策を担う行政の責任者が登壇し、それぞれの立場から現状と課題、組織型検診の実現へ向けての意見を議論されました。

シンポジウムには当協会がん検診センターの加藤勝章所長が登壇し、胃がん検診で行われている胃X線検査と、胃内視鏡検査について導入されている地域間の格差やその背景などを説明しその上で検査方法や実施間隔の異なる二つの検査の一元的な管理について、宮城県内での取り組みを紹介するとともに組織型検診の実現に向けた課題を述べられました。



2025年度 朝日がん大賞・日本対がん協会賞

朝日がん大賞

井上 真奈美 59歳
(いのうえ まなみ)
国立がん研究センター
がん対策研究所 副所長

日本対がん協会賞

■個人の部

伊藤 一夫 (いとう・かずお) 78歳
兵庫県健康財団理事

長瀬 清 (ながせ・きよし) 87歳
北海道対がん協会 名誉会長

岡村 信介 (おかむら・しんすけ) 76歳
姫路市医師会診療所 医師

松田 一夫 (まつだ・かずお) 69歳
福井県健康管理協会 がん検診事業部長

■団体の部

あけぼの秋田
(佐藤清子代表)

※敬称略、年齢は2025年9月1日現在

リレー・フォー・ライフ・ジャパンみやぎ2025

9月27日(土)12:00から9月28日(日)12:00にかけて、仙台市青葉山公園 仙臺緑彩館で“リレー・フォー・ライフ・ジャパンみやぎ2025”が開催されました。がんサバイバー、ケアギバー、支援団体など約700名が参加しました。

昨年度から24時間イベントが再開し、初日は当初21時までの参加予定でしたが、近隣に熊の出没情報があり宮城県から熊出没警報が発令されていたため、19時で一旦終了し、2日目は8時30分から再開といった時間が短縮されての実施となりました。また、日本対がん協会の垣添忠生会長が2日間当イベントに参加されました。

初日は12時の開会式に先立って肴町公園から会場前までの街頭行進(市内ウォーク)に参加した後、開会式、会場でのウォークに参加しました。また、トラックの外周にブースを設置し、がん検診啓発パネルの展示、啓発グッズの配布を行いました。2日目は開始時刻からブースの設置と会場でのウォークを再開し12時の閉会式に参加しました。ラストウォークには垣添会長が宮城県対がん協会の横断幕を持って一緒に歩いてくださり、貴重なウォークで締めくくることが出来ました。

当協会からも事前に作成したルミネリエでのイベント参加他、約30名の協会職員がイベントやウォークイベントに参加しました。参加者は思い思いにプログラムを楽しんでいる様子でした。

2日間好天に恵まれ、日差しが照り付け、気温が高い中、水分と休憩を十分とって熱中症対策に注意して参加し、特に大きなケガやアクシデントもなく、終了することができました。



宮婦連ブロック別研修会

ブロック・市郡名	開催日(曜日)	開催場所
仙南ブロック	2025年7月18日(金)	大河原合同庁舎
塩竈・多賀城	2025年7月29日(火)	塩竈市民交流センター
女川・東松島	2025年7月30日(水)	女川町生涯学習センター



今年度も、各地で開催された宮婦連ブロック別研修会に参加しました。

当協会の今回の研修会テーマは「～子宮がんについて～」と題して、子宮がんに関する講話や健康クイズを行いました。皆さん全問正解を目指して真剣にクイズに取り組んでいました。

宮城県がん総合支援センター

～宮城県から委託を受けて宮城県対がん協会内に設置しています～

がんに関する心配ごとや悩みに専門の相談員が応じます。**相談無料**
ひとりで悩まず、お話ししてみませんか？

ご本人、ご家族、どなたでもご相談ください。（個人情報厳守します）



がんなんでも相談

相談方法

電話、面談（要予約）、メール、手紙、FAX

TEL 022-263-1560 FAX 022-263-1548

メール zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

（ホームページの相談フォームをご利用ください）

相談受付

月曜日～金曜日（祝日・休日、年末年始は除く）

午前9時～午後4時

相談料

無料（通話料などの通信費用は相談者のご負担となります。）

住

所

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5-7-30 宮城県対がん協会内

※必要な場合は適切な窓口を紹介します。
※症状や病気に関する診断や治療について判断することはできません。
※個人情報は厳守いたします。



がん相談の他に…

《がん患者会の支援》



「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」の事務局を担当しています。
現在 30 団体が加入していますので、患者会の活動についてもお伝えします。

《がんピアサポーターの育成》

がんのピアサポーターとは「がんを体験した人同士がピア（仲間）として体験や悩みを共有し、ともに考え、がん患者さんや（またはその家族）を支援（サポート）する人のことをいいます。研修会の開催や病院等での実習を行っています。



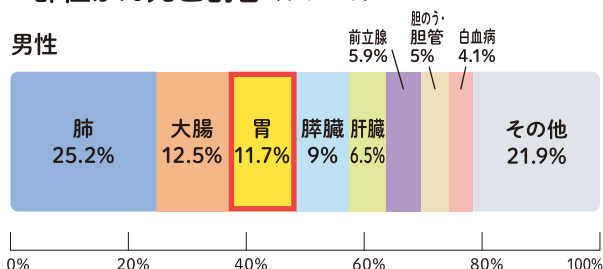
胃がんについて知りましょう

がんは日本人の死亡原因の第1位です。胃がんの死亡率は検診などによる早期発見・早期治療の進歩により減少傾向にあります。宮城県では、部位別がん死亡割合が、男性3位、女性5位となっております。

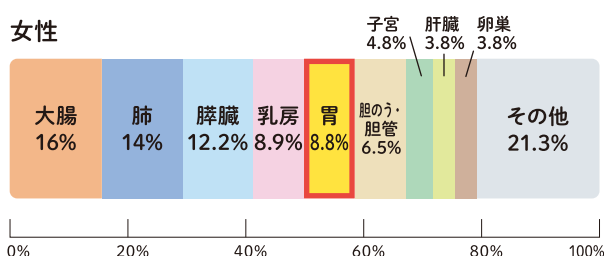
胃がんの発生要因は、わかってきていますが、宮城県では胃がん罹患率が、男性2位、女性4位と依然として高く、まだまだ予防が必要ながんです。

● 部位がん死亡割合（令和4年）

男性

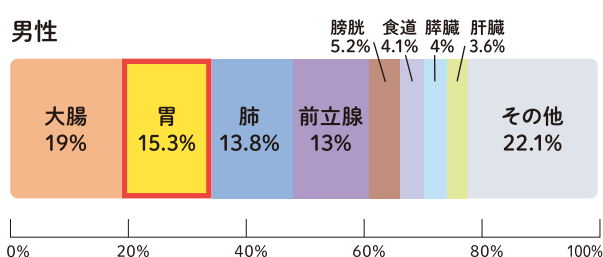


女性

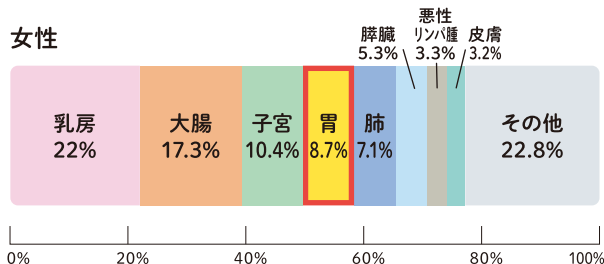


● 部位がん罹患割合（令和2年）

男性



女性



宮城県のがん罹患～宮城県がん登録令和2年集計～

▶ 胃がんを防ぐ生活習慣のポイント

Point 1 ヘリコバクター・ピロリ菌の感染をチェックしましょう。

ヘリコバクター・ピロリ菌（ピロリ菌）に感染すると炎症を起こし慢性胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍の原因になります。また、慢性胃炎のある方はない方に比べ胃がんになるリスクが高くなります。

日本人はピロリ菌に感染している人が多く、感染している人に胃がん患者が多いことがわかっています。ピロリ菌は、血液や便、尿、呼気などの検査でわかります。陽性の場合は、1週間薬を内服する治療が行われます。



注意!!



ピロリ菌の除菌治療をすると胃がんになるリスクは減少しますが、ゼロにはなりません。

除菌治療をしても胃がん検診は定期的に受けましょう。

Point 2 喫煙者は禁煙をしましょう。

他人のたばこの煙も避けるようにしましょう。



Point 3 塩分を控えめにしましょう。

- 酸味（酢やレモン、柑橘類など）、うま味（昆布、かつおなど）、香味（しそ、しょうがなど）を利用しましょう。
- 麺類・味噌汁の汁はできるだけ飲まないようにしましょう。
- 加工食品・干物・練り製品、漬物の摂取量に注意しましょう。

1日の塩分摂取の目標

成人男性 7.5g未満
成人女性 6.5g未満



Point 4 **これが大切!!** 胃がん検診をうけましょう。

胃がんは、早い段階では自覚症状がありません。症状がないうちに発見するためには検診が欠かせません。生活習慣の1つとして、定期的に検診を受けましょう。



国の推奨する胃がん検診

X線検査

バリウムと発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、様々な角度から胃の内部をX線撮影します。

内視鏡検査

直接胃の内部を観察します。必要により、胃の中の組織を一部採取（生検）して調べます。宮城県対がん協会では直径6mmの細いカメラで実施しています。

内視鏡の大きさの比較



従来の内視鏡

現在使用の内視鏡

宮城県対がん協会では鉛筆より細い内視鏡を使用しており、こんな声もいただいております。

オエッと
しなくなった!



胃がん検診でみつかるとは早期がんが多い! 早期がんの5年生存率は96%!

2023年度、胃X線検査において宮城県対がん協会が発見された胃がん248名のうち、早期がんは202名で81.5%でした。早期がんであれば5年生存率が96.0%と予後が良いです。また、早期がんであれば、侵襲が軽く済む内視鏡治療で済む場合もあります。宮城県対がん協会において、見つかった胃がんのうち内視鏡治療の割合は、発見胃がんで61.3%でした。



篤志寄付金

石川宏一、吉田清和、登米市立登米中学校、藤田より子、登米市立豊里小・中学校、(株)ベルジョイス、街頭活動委員会、センター募金箱

黒川利雄がん研究基金

及川貴司、伊藤尚人、石川宏一、村上裕重、布田直樹、泉田京子、村山すみ子、高橋啓、石川司之、渡辺浩之

賛助会員

■法人

常盤洋紙株式会社、株式会社エコー設備工業、株式会社橋本タイヤサービス、東北放送株式会社、イシイ株式会社 代表取締役 石井吉雄、株式会社小山商会、株式会社仙台カントリークラブ、株式会社白松がモナカ本舗、気仙沼窯業株式会社、株式会社佐藤製線所、若生工業株式会社、株式会社佐浦、株式会社リバーヴ、株式会社マコモ、株式会社羽田電機工業所、宮城商事株式会社、上西産業株式会社、学校法人朴沢学園、株式会社T・D・C、東日本メディカルシステム株式会社、株式会社ダイコクヤ、有限会社ふじや千舟、一般社団法人あかざ 代表理事 黒本暁人、石巻商工会議所、株式会社新日電業商会、学校法人明和学園いずみ高等支援学校 理事長 遠藤正敬、宮城石灰工業株式会社、株式会社あさの、青葉緑化工業株式会社、株式会社渡辺採種場、菅甚建設株式会社、株式会社宮城テレビ放送経営推進部、宮城中央ヤクルト販売株式会社、志津川オリエント工業株式会社、熱海建設株式会社、クレア工業株式会社、カメイ物流サービス株式会社、カイリク株式会社、株式会社東北保険グループ、古川商工会議所、公益社団法人仙台市防災安全協会、気仙沼商工会議所、宮城県自動車事業協同組合、カメイ株式会社、株式会社仙台放送、弘進ゴム株式会社、アルプスアルパイン株式会社、(株)三陸新報社、株式会社銀座薬局 代表取締役 牛澤啓至、有限会社サトー孔版印刷 代表取締役 佐藤雄二、白石商工会議所、株式会社東北プリント、宮城十條林産株式会社、マルニ食品株式会社、ワタヒョウ株式会社、塩釜商工会議所 会頭 桑原茂、学校法人仙台育英学園、東北特殊工業株式会社、株式会社藤崎、アツミ自動車株式会社、株式会社メガネの相沢、仙台商工会議

所、株式会社佐々直、常盤化工株式会社、株式会社東日本放送、東日本興業株式会社、アフラック仙台総合支社

■議会

丸森町議会、亘理町議会議員会、大河原町議会議員互助会、大衡村議会、利府町議会、女川町議会、涌谷町議会、村田町議会、七ヶ宿町議会、多賀城市議会、石巻市議員会、名取市議会議員会、色麻町議会、蔵王町議会、七ヶ浜町議会、松島町議会議員互助会、柴田町議会、美里町議会、大和町議会、富谷市議会、栗原市議会

岩沼市議会

大村晃一、酒井信幸、高橋光孝、沼田健一、佐藤一郎、渡辺ふさ子、布田恵美、佐藤剛太、高梨明美、岡田みつえ、植田美枝子

山元町議会

大和晴美、高橋真理子、竹内和彦、丸子直樹、渡邊千恵美、品堀栄洋、岩佐秀一、齋藤俊夫、岩佐孝子、伊藤貞悦、菊地康彦、遠藤龍之

大郷町議会

鎌田暁史、鈴木利博、赤間則幸、佐々木和夫、鈴木恵子、金須新一、田中三恵子、熱海文義、高橋重信、石垣正博、赤間繁幸、鈴木安則

塩竈市議会

志賀勝、佐藤公男、鈴木新一、小野幸男、菅原善幸、浅野敏江、桑原成典、柏恵美子、西村勝男、今野恭一、志子田吉晃、鎌田礼二、伊勢由典、鈴木悦代、辻畑めぐみ、小高洋、土見大介、伊藤博章

■医師会

遠田郡医師会

袖井文二、熱海智章、美里町立南郷病院

塩釜医師会

(医)こがね雅会 こがね医院

加美郡医師会

伊藤健太、医療法人 佐々木胃腸科、加美郡保健医療福祉行政事務組合 会計管理者

角田市医師会

小川俊哉、高山敦、医療法人 安達同済会 同済病院、金上病院

岩沼市医師会

板橋隆三、医療法人社団 みやぎ清耀会 緑の里クリニック、結城道広

栗原市医師会

三浦正明、栗原市病院事業 栗原市立若柳病院、佐々木裕之、菊田公一、佐々木浩、栗原市病院事

業 栗原市立栗駒病院、栗原市立栗原中央病院、医療法人社団 玄成会 達内科

黒川医師会

吉岡まほろばクリニック、千葉淳、遠藤敦、公立黒川病院

柴田郡医師会

みやぎ県南医療生活協同組合 しばた協同クリニック、庄司則文、大沼勝、安田京、医療法人社団北社会 船岡今野病院、甘糟仁、(医)玉川 太田内科、みやぎ県南中核病院、平井完史

仙台市医師会

結城豊彦、田所慶一、(医)秀放会 仙台総合放射線クリニック、柴原義博、鬼怒川博久、永井豊子、助川泉、長島道夫、佐藤俊裕、千葉守、飯田剛、和田裕子、五十嵐丈太郎、松田恵三郎、今井克忠、阿部慎哉、長池文康、林未来、社会医療法人 康陽会 中嶋病院、妹尾重晴、丹野恭夫、遠藤潔、町田晶子、京極士郎、松永弦、伊藤賢司、菊地亮介、草野仁、はんざわ内科胃腸科、吉田仁秋、清水雅行、湯村医院、矢田部宏一、(医)星世会 ほし外科医院、医療法人社団 仙台腎泌尿器科、(医)松田会 八木山内科・皮膚科クリニック、相田重光、古田隆史、棚橋善克、松原信行、野口哲也、医療法人 宏人会、森俊彦、山本眼科医院、曾根眞一郎、小林美樹子、鈴木雅貴、嘉数太郎、公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院、宮田隆光、結城広光、角田記念ちえこ・ゆきかレディースクリニック、大山明、医療法人 貝山仁済会、目黒由紀、遊佐明、堀克孝、渡邊浩光、佐藤彰、石田一彦、医療法人 有麟堂 堀田内科、一般財団法人 厚生会、宮澤佑二、安田病院、太田憲道、プレシオーソ クリニック、佐藤弘房、野口謙治、椎葉健一、佐藤茂、国家公務員共済組合連合会 東北公済病院、笠井豊、馬場安彦、森元富造、佐藤玄德、高柳義伸、佐藤泰彦、大方俊樹、山口尚、小池良樹、あんどろクリニック、渡辺新吉、医療法人 ひろせ会、小林茂樹、一般財団法人 広南会 広南病院、仙台赤十字病院、菅原克明、宮崎豊、國井周太郎、五十嵐司、医療法人 山岡医院、本島正、樋渡信夫、高梨芳崇、今村幹雄、佐藤互、医療法人社団 秀薫会 池田クリニック、社会医療法人 杏仁会 河原町病院、独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院、結城豊彦、医療法人社団 三好耳鼻咽喉科クリニック、藤田直孝

大崎市医師会

森啓之、古川星陵病院、医療法人 永仁会 永仁会病院、菊地玄、有馬和夫、佐藤和朗、千葉徹、近江徹廣、大崎市病院事業 大崎市民病院 鹿島台分院、

(医)星眼科医院、医療法人社団 慈篤会 三浦病院

登米市医師会

三浦守正、医療法人二瓶内科胃腸科医院、小澤道孝、登米市立豊里病院、登米市立米谷病院、森明彦、登米市立登米市民病院、佐藤厚史、遊佐不三雄、八嶋中央診療所

東北大学医師会

小池智幸

桃生郡医師会

櫻井忠実、医療法人 医徳会 真壁病院、医療法人社団信和会 ものうファミリークリニック

白石市医師会

小松和久、公立刈田総合病院、医療法人 塚本内科 消化器科、佐藤秀一、(医)梅津内科医院、佐藤恒明、大泉記念病院

名取市医師会

洞口淳、金澤義彦、川村義宏、益子啓、佐藤滋、小林芳江、原田雄功、丹野尚昭、佐々木英彦、曾我良輔

亶理郡医師会

三浦俊治、医療法人社団 松村クリニック、熊谷明、板橋敏之

■宮婦連

北方婦人会、大島婦人会、大和町鶴巣婦人会、松岩婦人会

鶯沢婦人会

千葉たつ子、菅原キクミ、菅原悦子

亶理婦人会

三戸部とし江、相原成子、佐藤徳子、小野寺貞子、岩見富子、佐藤キクヨ、高橋泰子、戸引よし子、渡辺みつ江、馬場さえ子

利府町婦人会

品部陵子、西澤久子、佐藤ちよ、貝山昭子、大友明美、小山田律子、伊藤喜美子、伊藤恵子、亀山律子、本間美代子、林せつ子、橋本こずえ、伊藤みつ子、長井礼子、小山田加代子、渡邊美津子、村上あさよ、木村みゆき、佐々木順子、三浦美恵子

名取市地婦連

高橋志津枝、閑上婦人会、館腰婦人会、増田婦人会、名取が丘婦人会、増田西婦人会、愛島婦人会、下増田婦人会

豊里婦人会

芳賀芳枝、大友秀子、八木しみ子、只野好子、遠藤しみ子

米山婦人会

後藤直子、三浦きさ子、梅本とね子



筆甫婦人会

目黒房子

白石市地域婦人団体連絡協議会

大野のり子、太田さき子、渡邊幸子、大野キミノ、島影幸子、大宮よし子、吉川淑子、志賀千賀子、斎藤ゆう子、佐藤きよ子

東松島市婦人会

伊藤百合子、石垣とみえ、浅野美枝子、津田美枝子、佐藤豊子、河嶋清子、千葉成子、木村礼子、田中敬子

登米町婦人会

千葉信子、佐々木きよ子、源間まゆみ、小堀恵子、阿部晴美、渡辺のり子、海老名千佳、佐々木栄美

大和町吉田婦人会

堀籠美江子

大和町吉岡婦人会

浅野洋子、児玉久子、若生みさを

大内婦人会

石田真利子、森れい子、作間由子

多賀城市婦人会連合会

渡辺とめ、佐藤セツ、櫻井やえ子、松村敬子、長谷川斐子、石塚美代子、伊藤友子、加藤悦子、大内芳子、小幡洋子、阿部多枝子、阿部純子、根本菊江、小幡公子、眞山祐子、笹原うた子、菊田百合子、伊藤輝美、小野雅代、白濱宣子、小野絹子、平山裕子、鈴木絹子

新田婦人会

津田節子、小林愛子、三塚のり子、三塚ふみ子、伊藤ゆみ子

女川町婦人会

遠藤悦子、梁取礼子、木村佳代子、勝又菊枝、高橋京子、木村妙子、佐藤えい子、小山栄子、東海久美子、鈴木信子

若柳婦人会

三浦千代、川嶋祐子、千葉和子

七ヶ浜町婦人会

佐藤美代子、千葉志美枝、相澤由美子、伊藤志久子、星淑子

志波姫婦人会

相馬桂子、三浦末枝、菅原峰子

荒浜婦人会

濱野かじ子、渡部とし子、永濱由紀子、佐藤富美子、森恵子、穴戸ひろ子、須郷貞子

吉田婦人会

丸子常代、小野礼子、岩佐直子、渡部とも子、小野典子

栗駒婦人会

菊地寿美子、佐藤かち子、佐藤多恵子

吉田西部婦人会

大河原みつ子、大槻かづ子、大河原正子、安藤美重子、島田恵子

丸森婦人会

上村文子

花山婦人会

工藤幸子、千葉とくみ、及川喜留子

遠田郡地婦連

中埜地区 大石富久子、南郷地区 佐々木敬子、涌谷町地域 瀧川澄江、小牛田地区 鑑清枝

永野支部婦人会

佐藤ひさ代

一迫婦人会

氏家和田子、松田文子、菅原郁子、三浦一子、狩野良子

逢隈婦人会

佐藤礼子、菅生和子、齋藤多寿子、渡辺芳、三品美智子

■みやぎよろこびの会

萬里崎吉政、佐藤美千子、石川司之、根元京子、佐藤艶子、佐藤たまを、千葉昌男、中川ユリ、後藤ふじゑ、大泉ちね子

■個人

江向裕史、渡部英夫、村山すみ子、佐藤末子、西條尚男、小田切千恵、五十嵐紀子、市川信昭、佐野國男、佐々木博司、高橋堅固、松坂法律事務所 松坂英明、渥美ヤエ子、阿部はつ江、齋藤吉光、亀山米子、佐藤いせよ、内海春壽、久道真一、村上裕重、石黒典子、笹原啓子、関口清、鈴木ゆき子、亀岡直樹、山口正一、弁護士法人三島法律事務所、谷川原真吾、只野一宏、稲垣晃、佐藤朝子、佐藤好子、岡嶋泰子、ひまわり法律事務所 弁護士 佐々木健次、佐藤孝之助、阿部せつ、本郷町内会 会長 佐藤達朗、弁護士 小松亀一、橘川光男、中澤きく子、犬飼健郎法律事務所 弁護士 犬飼健郎、鈴木八郎、武田雅比人、鎌田宏、武者盛宏、遠藤好英、佐々木政子、土井きよゑ、来海慶子、大山勝彦、平田誠、亀山喜美子、木村毅、亀山かつ江、衛藤雅之、出川博一

■職員

及川貴司、布田直樹、湯田教恵、齋藤千晴、永窪紀代美、渡辺浩之



株式会社 ベルジョイス様よりご寄付をいただきました

岩手県を中心に青森県、宮城県でスーパーマーケットを展開する株式会社ベルジョイス様が10月のピンクリボン月間に募金箱を店頭を設置し、ピンクリボン運動を行っている団体へ寄付する活動を2010年から実施されています。

これまでは岩手県内の店舗でのみ行われていましたが、今年は宮城県内の店舗でも実施されることとなり、当協会への寄付を打診してくださいました。

今回募金の実施店舗であるビックハウス富谷店へご挨拶と実施状況の見学に伺いました。

2025年11月に乳がんに対する啓発活動等のために役立ててほしいと、宮城県内7店舗で集まった募金総額9,835円のご寄付を頂戴いたしました。

この度は誠にありがとうございました。



ビックハウス富谷店



募金箱を案内いただいた
ビックハウス富谷店 左)西田さん 右)神成さん

賛助会員 (個人・法人の継続寄付)を募集しております

当協会では、がんに関する正しい知識の普及啓発、がんの早期発見・早期治療のための調査研究等の事業を行っています。このような事業活動は皆様からの尊い寄付により支えられています。

なお、寄付金については**税制上の優遇措置**を受けることができます。**個人**の方からの寄付金は、所得税において優遇措置対象となり、寄付者の方は確定申告の際に従来の「**所得控除**」と「**税額控除**」のいずれか**有利な方を選択**して控除を受けることができます。**法人**の寄付金に対する優遇措置としては、「**特定公益増進法人**」に対する寄付に該当しますので、**法人税法上の規定による限度額が損金**として認められます。



寄付金の種類

- 賛助会員寄付** 協会の活動をご支援いただき、毎年ご寄付をしてくださる方
 - 個人会員 1口 1,000円以上の寄付者(個人)
 - 法人会員 1口 10,000円以上の寄付者(団体・法人)
 - 特定維持会員 寄付金の額を定めて「がん征圧運動」に一層の協力支援をいただいている法人
- 篤志寄付** 協会の活動に対する一時的な寄付金
- 黒川基金** 黒川利雄がん研究基金のためと使用を指定した寄付金

がん征圧に向けた、あたたかいご支援ご協力をお待ちしております。

ご寄付のお申込、お問い合わせは下記までお願いいたします。

公益財団法人 宮城県対がん協会 法人総務課 法人事業係

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5-7-30 TEL 022-263-1637 FAX 022-263-1548

ホームページアドレス <https://miyagi-taigan.or.jp>

2026年度「黒川利雄がん研究基金」による研究助成金の応募要領

趣 旨

この基金は、1989年(平成元年)に宮城県対がん協会の初代会長故黒川利雄先生の遺志を受け、がんの予防および早期発見に関する技術の開発等に係わる医師等の研究助成を行い、がん対策の長期的な展望を開くために創設した。

2025年度までに、146人に対し9,330万円の助成金を交付している。

研究対象分野 と 応募資格

我国のがん予防および早期発見に関する技術の開発等、がん対策に係わる研究を行う50歳未満の個人および団体で、以下の研究分野を対象とする。

なお、公益財団法人宮城県対がん協会の理事、貴所属長またはそれに準ずる者の推薦を必要とする。

■1がんの疫学および集団検診に関する調査・研究・開発

■2がんの早期発見および治療に関する調査・研究・開発

■ 応募件数および推薦件数

同一施設・分野からの応募は1件までとする。

推薦者が推薦できる研究は1件までとし、他の申請の共同研究者になることはできない。

■ 助成金の額

助成総額は220万円とし、研究助成金1件あたり100万円を限度とする。

■ 応募方法

応募希望者は、当協会ホームページより申請書類(報告書式を含む)をダウンロードの上、下記住所あてに郵送で申し込むこと。尚、応募締切期日は、次項のとおりとする。

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5丁目7番30号

公益財団法人 宮城県対がん協会

「黒川利雄がん研究基金」事務局 宛

TEL.022-263-1637 FAX.022-263-1548

<https://miyagi-taigan.or.jp>

■ 期 日

[応募締切] 2026年 3月末日

[発 表] 2026年 5月予定

[交 付] 2026年 6月予定

■ 発表方法

選考の結果については、申請者及び推薦者宛に通知する。

■ 選考方法

公益財団法人宮城県対がん協会「黒川利雄がん研究基金」運営委員会において審査し、会長が決定する。

■ 研究成果の報告

本助成金を受けたものは、翌年3月末日までに研究の成果(業績)を提出することとし、研究が完結していないときは、中間報告として提出すること。

報告書式は申請書類に含まれる研究報告書の通りとし、研究成果を発表した場合は、その別刷りを提出すること(電磁媒体でも可)。また、研究報告には会計報告も添付すること。

※会計報告は最終報告の際に添付するものとする。研究報告の提出先は「応募方法」記載の宛先に同じ。

(電磁媒体での報告の場合…

houjin@miyagi-taigan.or.jp)

なお、研究報告書が提出されない場合、または研究の取り止めもしくは中止した場合については、研究助成金の交付は取り消しとする。その場合、研究助成金を速やかに黒川利雄がん研究基金に返金すること。

■ 注意事項

①本助成金により研究成果を発表する場合は「黒川利雄がん研究基金」によることを明記すること。

This work was supported in part
by a Grant-in-Aid from

“KUROKAWA CANCER
RESEARCH FOUNDATION”

②助成金について、申請者の所属団体においては間接経費の免除をお願いします。